

青果物輸出産地セミナー & マッチング ～北海道

アクセントリア株式会社

2022年8月4日

開催概要

セミナーにて道内青果物の輸出可能性を紹介した上で、商社/バイヤーとの商談・他事業者とのネットワーキングを推進。

← 8/4(木) 1日完結 →

セミナー(現地開催)
※後日アーカイブ配信

個別商談会 (現地orオンライン)

事業者間交流会 (現地開催)

- 輸出産地等から、多くの産地が手本としやすい産地づくりの取組・ポイントについて紹介
- 産地支援に関わる商社・コンサル中心に、支援事例・産地形成のポイントを紹介

- 国産青果を積極的に取扱う商社・バイヤーとの商談を実施
 - 会場にバイヤー毎のブースを作り現地で商談
 - コロナの状況等で会場に来れない場合はオンラインでの商談を想定
- 交流会は、商社・コンサルを囲む形で商談会待ち時間に実施

北海道の青果物輸出拡大に向けて
商談・ネットワーキング促進まで伴走

商談参加バイヤー

事業者名	主な輸出先国	事業者概要
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス (小売チェーン)	シンガポール・香港・タイ・台湾等	DonDonDonki等の小売店を海外展開し、日本産生鮮品(食品)を積極的に取扱。輸出物流網の最適な体制構築を推進。
シティ・スーパー※オンライン参加 (小売チェーン)	香港・台湾・中国(上海)	香港・台湾・上海で高級スーパーを展開。日本産品の定番から珍しい品まで、シティ・スーパーだけが取り扱う商品が多数存在。
国分北海道 (食品卸売)	中国・ベトナム・マレーシア・シンガポール等	国内トップクラスの仕入れ先・取扱い商品を持つ食専門の卸。北海道の食文化に精通し、地域に根差した商品の発掘・選定を行う。
北海道総合商事 (輸出商社)	ロシア・中国・台湾・シンガポール・タイ等	北海道銀行の社内ベンチャーとして立ち上がった輸出商社。ロシアの永久凍土でトマトの栽培を試みるなど革新的な取り組みを実施。
九州農水産物直販 (輸出商社)	香港・シンガポール・台湾・中国	産地より直接仕入れ、Dairy Farm社(香港)へ直接送ることでマージンを極力控えた独自の販路を有する。アジア諸国10か国以上に輸出。
萌す (輸出商社)	シンガポール・台湾・香港・ベトナム等	日本各地の産品を幅広く取扱う沖縄県の地域商社。小売やEC、ライブコマース向け輸出を中心に品目横断での輸出を推進。

北海道産青果物輸出拡大に向けたポイント

- 従来、青果物輸出は果物・かんしょ・ながいもに留まっていたが、“**巣ごもり需要**”を受けて、**野菜**の輸出が拡大している
- 北海道は国内においても、多品目・大規模生産地であり、**北海道ブランド**を活かした**安定供給・大ロット輸出**のポテンシャルが高い
 - 道産野菜では、ながいもに加え、**たまねぎ・かぼちゃ・にんじん・じゃがいも**・生産拡大中の**かんしょ・大根・葉物野菜・にんにく**等が有望品目
- **メロン・アスパラガス・とうもろこし**等も小ロット・航空輸送での可能性
- **海外EC**における日本産野菜の取扱い増加・日系EC事業者の海外展開
- 技術を活かした**青果加工品**・高付加価値の**冷凍野菜・カット野菜**への期待
- 現地料理/現地ニーズの高い日本食への**日本産野菜のメニュー提案**・産地ストーリーを含めた**体験価値**の重要性

北海道産青果物輸出拡大に向けた物流のポイント

- 広大な面積を有する北海道では、効率的な輸送に向け**同一・近隣エリアにおける集荷パターン**を確立することが重要
- 道内港湾(苫小牧・石狩等)は船足が長く、航路上釜山の混雑も考慮する必要があり、**品質保持**が最大の課題
- 最短距離/時間での**輸送ルート構築** (回送費が高く、利用できる港湾が限られる**CAコンテナ活用**スキーム等含めて) ・**包材規格統一**等の青果物物流の最適化が重要
- 収穫時期・輸送温度帯が異なるため、**海上混載輸出**の難易度が高い青果物(特に野菜)の**混載輸送技術**の確立も合わせて必要
- 特に小口での輸出の場合、**道内輸送コスト**が割高になる懸念もある
- GAPをはじめとした青果物の**トレーサビリティ・サステナビリティ**担保への要請